

の、その赤いものを食べさせてほしい。私は疲れきっているんだ。」

双子の兄弟エサウとヤコブの葛藤は創世記25章、27章に出て来ます。エサウはヤコブよりもずっと生活力があり自立していたことが分かります。しかしそのために社会的な約束事(長子の権利など)には無頓着で、目先の欲望(空腹)で短絡的に動くことになり、ヤコブに出し抜かれます。この物語はエサウの軽率さを批難しているというよりも、私たちに人間というものを教えているのでしょう。

1月28日 列王記(上) 第3章 26節

生きている子の母親は、その子を哀れに思うあまり「王様、お願いします。この子を生かしたままこの人にあげてください。この子を絶対に殺さないでください」と言った。

いわゆる「大岡裁き」の原話です。人の願いは、純粋な心が歪んで表れることが多いです。しかしこの物語ではその逆で、深く愛を注いでいる大切な人の危機にあっては、願いは純粋になって行くようです。危機に瀕することがなくても、いちばん大事なことを心にとめておくと、普段の生活もずっと喜ばしいものになりそうです。

## 親子礼拝説教ガイド 2024年1、2月



## 【年間テーマ】自分の願いを知る

ひとつのことを主に願い／それだけを求めよう

(詩27より)

### 【1月のテーマ】 新年の願い

誰にでも、心の中には大切な願いがあります。いちばん大切な願いは、おそらく清く純粋なものです。しかし私たちの具体的な願いは、表面的な欲求のために歪んでいることも少なくありません。受験、交友関係、健康・経済問題など現実生活で苦勞しているからです。

新年には多くの人が気持ちを新たな目標を立てます。目標は、その人にとっての大切な願いと深く関係しながらも歪んでいる面があるかもしれません。心の奥の正しい目標を見つけ出したいものです。

### 1月7日 詩63篇12節

神によって王は喜び祝い／誓いを立てた者は誇りますように／偽って語る口は必ず閉ざされますように

詩篇にあるダビデの詩の多くは敵を呪い敵が減びることを願うものです。しかし熱心に祈る祈りの言葉の中に

は、いつの間にか信実が現れ出てきています。新年に志を立てる時、神の前で言い表すことの出来る志かどうかを振り返って考えると、志が純粹になって行くでしょう。生徒に教える前に、自分自身を振り返ってみましょう。

### 1月14日 マルコ福音書 第10章36、37節

イエスが「何をしてほしいのか」と言われると、二人(ヤコブとヨハネ)は言った。「栄光をお受けになる時、私どもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」

ヤコブとヨハネは天国での高い地位を願いました。出世を願うのは信仰的には的外れであることをイエスは諭しますが、厳しく責めることはしませんでした。自身の十字架死を予告した(33、34)直後だったので、一緒に殉教する覚悟をしたかった二人の気持ちを察したからかもしれません。軽率な発言の奥の尊い思いを自身で見出すことができれば、私たちはより充実した精神生活を送ることができます。

### 1月21日 創世記 第25章 30節

エサウはヤコブに言った。「お願いだ、その赤いも